

第6回井上靖記念文化賞の受賞者について

第6回井上靖記念文化賞選考委員会を2月18日（土）に東京都内において開催し、次のとおり受賞者が決定しました。

1 井上靖記念文化賞について

文学、美術、音楽及び歴史等の文化活動において優れた作品や活動実績を有し、また、その活動を通じて継続的に地域や社会への貢献を行っていて、これからの更なる飛躍が期待される個人又は団体を対象としています。

2 主催

一般財団法人井上靖記念文化財団

井上靖記念事業実行委員会（旭川市教育委員会、北海道新聞旭川支社、NPO法人旭川文学資料友の会）

3 受賞者（※主な経歴は別紙）

(1) 井上靖記念文化賞（記念品及び賞金100万円）

(受賞者名)	(職業)	(受賞の理由)
よします ごうぞう 吉増 剛造 ・昭和14年2月22日生（84歳） ・東京都中央区 在住	詩人	吉増剛造氏は現在、日本で最も活きのいい詩人である。かつ最も純粋な詩人である。 『黄金詩篇』から始まる彼の詩作活動の泉は今に至るまで枯れることなく、こんこんと日本語の世界を豊かに潤し、芳醇な詩的精神文化を醸成している。 半世紀以上にわたる彼の詩と声は、さながら宇宙の中心にある大樹の如く我々の生と思念を支え、井上靖の詩的世界に通底する。 我々は、井上靖記念文化賞に最も適しい詩人を選ぶことが出来た。

(2) 井上靖記念文化賞 特別賞（記念品及び賞金50万円）

(受賞者名)	(職業)	(受賞の理由)
やまもと ひろこ 山本 ひろ子 ・昭和21年4月19日生（76歳） ・東京都世田谷区 在住	和光大学名誉教授/ 私塾「成城寺小屋講座」代表	山本ひろ子氏は日本の中世神話の大成者である。これまで記紀神話＝国家神道に染められていた神話学を更新し、民俗＝民族の根にある異神たちへの想像力と信仰の力を解放した。 それは真にユニークで、文化論的な業績である。

4 選考委員（5名）

赤木 国香（北海道新聞社文化部長）

川村 湊（文芸評論家・法政大学名誉教授）

栗原 小巻（女優・日本中国文化交流協会副会長）

酒井 忠康（美術評論家・世田谷美術館長）

辻原 登（作家・県立神奈川近代文学館長）

5 贈呈式（予定）

(1) 日 時 令和5年5月20日（土） 午後3時から

(2) 会 場 アートホテル旭川

(3) 内 容 賞の贈呈、受賞記念講演会

(4) 入場料 無料

(5) 定 員 50名

6 (参考) これまでの受賞者

第1回(平成28年度) : 菅野昭正(世田谷文学館長), 小田豊氏(六花亭製菓(株)元代表取締役社長) ※本賞2名

第2回(平成29年度) : 芳賀徹(国際日本文化研究センター名誉教授), 特別賞: 織田憲嗣(東海大学名誉教授)

第3回(平成30年度) : 大城立裕(作家), 特別賞: 伊藤一彦(歌人・若山牧水記念文学館長)

第4回(令和元年度) : 宮本輝(作家), 特別賞: 岡野弘彦(歌人・國學院大學名誉教授)

第5回(令和3年度) : 熊川哲也(バレエダンサー/Kバレエカンパニー芸術監督), 特別賞: 藤原良雄((株)藤原書店代表取締役社長)

(問合せ先) 井上靖記念事業実行委員会事務局

旭川市教育委員会 社会教育部文化振興課 担当: 小川 (0166-25-7558)

【受賞者の業績等】

井上靖記念文化賞 吉増 剛造 氏

1 活動の概要

1939年東京生まれ。慶應義塾大学文学部国文科卒業。在学中から「三田詩人」「ドラムカン」を中心に詩作を試みる。60年代より詩の朗読を始め、世界各地で先鋭的なパフォーマンスを行なう。近年は銅板オブジェや写真、映像作品も手掛ける。2012年より旭川市井上靖記念館青少年エッセーコンクール審査員長。2015年三田文学会理事長就任。2013年文化功労者、2015年日本芸術院会員。

2 著書

『出発』、『熱風 a thousand steps』、『黄金詩篇』、『オシリス、石ノ神』、『螺旋歌』、『「雪の島」あるいは「エミリーの幽霊」』、『表紙 omote-gami』、『キセキ gozoCiné』など。

3 主な受賞歴

- 1970年 『黄金詩篇』で高見順賞
- 1979年 『熱風 a thousand steps』で藤村記念歷程賞
- 1984年 『オシリス、石ノ神』で現代詩花椿賞
- 1991年 『螺旋歌』で詩歌文学館賞
- 1998年 『「雪の島」あるいは「エミリーの幽霊」』で芸術選奨文部大臣賞
- 2003年 紫綬褒章
- 2009年 『表紙 omote-gami』で毎日芸術賞
- 2013年 旭日小綬章、文化功労者、福生市民栄誉賞
- 2015年 恩賜賞・日本芸術院賞（日本芸術院会員）

【受賞者の業績等】

井上靖記念文化賞特別賞 山本 ひろ子 氏

1 活動の概要

千葉県市川市生まれ。早稲田大学第一文学部史学科中退。1970年代半ば、原典講読を旨とした高田馬場の「寺小屋教室」に参加、政治思想や中世日本の神々について学ぶ。現在、私塾「成城寺小屋講座」を主宰し、神楽・祭祀を中心とした講座、現地見学を実施。フェリス女学院大学非常勤講師などを経て、和光大学表現学部教授。2017年3月退職。

2 著書

- 1993 『大荒神頌』岩波書店<シリーズ物語の誕生>
- 1993 『変成譜 中世神仏習合の世界』春秋社（新版2000／講談社学術文庫2018）
- 1998 『異神 中世日本の秘教的世界』平凡社（改訂新版／戎光祥出版2023年夏）
- 1998 『中世神話』岩波新書
- 2022 『摩多羅神 われらいかなる縁ありて』春秋社